

TICAD VIへの期待と懸念 アフリカにおける回廊開発について ～モザンビーク・ナカラ回廊開発と小農～

日本国際ボランティアセンター
アフリカ日本協議会
モザンビーク開発を考える市民の会

報告者: 渡辺直子

1

目次

1. TICAD IV(2008年)での合意・演説
2. TICAD V(2013年)での路線の継続と重点が置かれる回廊開発
3. アフリカ(成長)回廊開発
4. 日本の国別計画(モザンビーク)とナカラ回廊開発の重点化
5. ナカラ回廊地域で生じている現象と日本の官民援助・投資
6. 小農への影響
7. 結論

2

第4回アフリカ開発会議 TICAD IV(2008年5月28-30日) 「元気なアフリカを目指して:希望と機会の大陸」

- TICAD IVでは、経済成長の加速化、人間の安全保障の確立及び環境・気候変動問題への対処を重点事項として、アフリカ開発の方向性について活発な議論が行われた。

=>「横浜宣言」

- 我が国の対アフリカ支援策を発表し、対アフリカODAの倍増、対アフリカの民間投資の倍増支援等を打ち出した。

=>「開会演説」(福田康夫首相)

- http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ticad/tc4_gh.html

3

TICAD IV(2008年) 横浜宣言 近年の趨勢及び課題

- 2.1 TICAD IV参加者は、2003年のTICADIII以来アフリカ大陸において一般的に見られる前向きな兆しを確認した。政治的安定及びガバナンスの改善により、強力な経済成長及び海外直接投資の増加、就中アジアからの増加に後押しされる形で、アフリカ大陸全域で貿易、投資及び観光の機会への新たな認識が形成された。
- こうした機会は、アフリカ諸国が持続可能な真の経済成長を達成し、またそれにより貧困削減、生活水準の改善及び自立の向上に向けて持続可能な発展を遂げるという、これまでになかった見通しを提供する。
- 2.4 TICAD IV参加者は、現在行われているアフリカ・ピアレビュー・メカニズム(APRM)を含む、アフリカ諸国自身によるアフリカのガバナンス改善に向けた精力的な努力に留意した。
- http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/20/efuk_0528.html

4

TICAD IV(2008年) 横浜宣言 成長の加速化

- 3.1 TICAD IV参加者は、広範な経済成長と経済の多様化を加速化させることが重要であることを強調し、**アフリカ大陸にある豊かつ現在まで大部分が未開発である資源の潜在性を確認した。**

民間セクターの役割

- 3.8 TICAD IV参加者は、**とりわけアフリカ大陸の天然資源の効率的な開発、工業、エネルギー及び鉱業、農業、金融及びその他のサービスセクターの発展、**に關した**持続可能な経済成長の促進及びそのための資金供給を行い、**また、**アフリカの相当数の人的資源の開発及び管理を**行っていく上で、**アフリカ内外の民間セクターが果たす役割が重要であることに留意した。**

5

5.0 平和の定着とグッドガバナンス 「人間の安全保障」の政治的側面

5.1 TICAD IV参加者は、**開発と平和の双方が歩調を合わせて進展すべきであると改めて確認した。**参加者は、この点に關してアフリカ大陸でなされた重要な進展に留意し、**元気なアフリカを実現するためには、平和の配当がアフリカの隅々にまで広がらなければならないことを強調した。**

5.2 また、参加者は、紛争から脱しつつある国々は、復興及び持続可能な開発の軌道に乗り、繁栄の成果を得るために特別な支援が必要であることを改めて強調した。

- これが実現するためには、**紛争予防、早期警戒措置、紛争解決及び新たな紛争の勃発の予防を包含する切れ目のない平和構築努力が決定的に重要である。**その理由は、こうした努力がアフリカにおける持続的平和を促進するためである。
- これらのプロセスを通じて得られた平和を持続するためには、**健全で活発な民主主義、継続的かつ包括的な対話及びガバナンスの強化が活発に促進されることが必要である。**
- 更に、これらの各段階の間の円滑な移行及び平和の定着と他の開発分野における支援間の関連付けも極めて重要である。

6

TICAD IV開会演説：民間投資誘引の ためのインフラ重視・建設好機

- アフリカの成長が勢いを増していくため何より重要なのは、**インフラの充実であります。特に交通インフラを整備することが民間投資を呼び込むには非常に大切だ**ということ、**日本やアジアの経験は教えてくれております。**
- そこで、お約束の第一であります、**日本は向こう5年のあいだ、最大40億ドルの円借款を積極的かつ柔軟なやり方でアフリカに提供し、インフラ整備に勢いをつけるお手伝いをしたい...**
- 今こそインフラ建設の好機だと思いますのは、近年のアフリカで治安や政情が改善し、そのおかげで地域の統合を進め、**経済にスケールメリットを 求める気運がアフリカの随所に盛り上がっているから**であります。
- 私どものつくるインフラは、「人々のためのインフラ」でなくてはなりません。そこに暮らす人々、コミュニティーに対し、豊かさをもたらすものでなければなりません。**

7

TICAD IV(2008)開会演説 日本企業の進出・官民連携促進

- アフリカの成長のためには民間企業の活躍が不可欠であり、そのためにもインフラ整備が重要です。**インフラが整えば、日本企業ももっと関心をもつでしょう。日本企業の直接投資が進めば、技術や経営ノウハウの移転がそれだけ進むことになります。日本のもつ技術をつかってアフリカの豊富な資源がいま以上に活かせることとなれば、それは成長の起爆剤になり、必ずやアフリカを益するはずであります。**
- そのために日本政府としては、インフラ整備とともに、**日本企業のアフリカにおける活動を促す方策を講じてまいります。私が推進したいのは、一つには大型経済ミッションの派遣です。今年の夏以降、政府要人と経済界の合同ミッションをアフリカに送ります。**
- それから日本企業がアフリカで事業を展開しやすいように、**貿易保険を充実します。更に、国際協力銀行に「アフリカ投資倍増支援基金」を新たに設け...今後5年で25億ドル規模とします。**
- このような政府・民間の共同作業により、**日本からアフリカに向かう民間投資が倍増するよう目指します。**

8

TICAD V(2008)= IV(2013)の継承

+「質の高い成長」

(「強固で持続可能経済」「包摂的・強靱な社会」)...

- 1.3 我々は...アフリカにおける前進に留意する。...これら課題に取り組み質の高い成長を追求する。
- (これは、)「強固で持続可能な経済」、「包摂的で強靱な社会」、及び「平和と安定」を促進するための一致団結した行動を通じて実現される。
- 1.4 我々は、歩みを進め、TICADが変革的で強靱かつ包摂的なアフリカの成長を更に促進することの必要性について一致する。こうした成長を促進することにより、成長の恩恵がより広く、より均衡に、そしてより持続的にアフリカ大陸の人々にあまねく分け与えられる。

TICAD Vにおける公式イベント(JICA) 「アフリカの包摂的・ダイナミックな開発」

- 5月31日から6月3日の4日間にわたり、産業開発、貿易・投資促進に加え、雇用、保健、教育、平和と安定、環境問題等の課題への効果的対応に向けた議論が活発に行われました。
- 右図:6/2開催「アフリカ成長に向けた回廊開発の取り組み」



http://www.jica.go.jp/press/2013/ku57pq00001e5x7k-att/20130603_02_21.pdf

アフリカ回廊開発とは？



8 8つの「成長ベルト」事業計画の提案

短期・長期事業を組み合わせて、「成長の加速化」を確保

成長ベルトを実現するための広域運輸インフラ事業について、構想した短期事業（2012年までに事業開始を予定）、長期事業（2020年までに事業完了）について、以下に概要を示す。

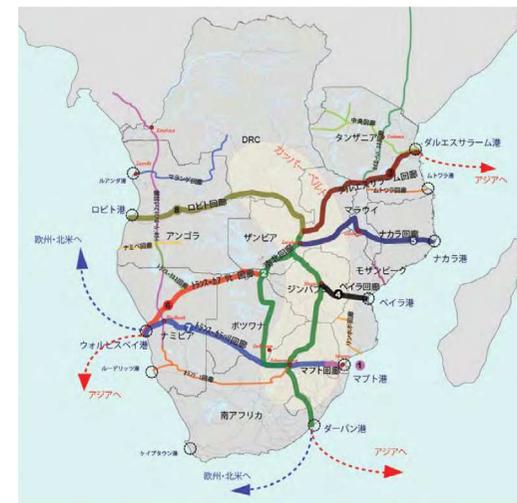


図10 最優先8回廊

3 回廊開発こそ成長の鍵

運輸回廊が経済の多様化と成長を推進する。

南部アフリカ地域には、「地下資源」および「農産物」と「世界市場」を結ぶ「運輸回廊」が18路線ある。本調査では、成長シナリオに基づいて、地域経済と運輸回廊の役割を再構成し、「資源」「付加価値の創出」「世界の市場経済」を高度に結合させる「成長ベルト」のコンセプトを提案した。

(注)本調査において運輸回廊とは、世界市場と内陸国・地域を接続する、港湾・道路・鉄道・水路などで構成される一連の交通施設を示す。運輸回廊には国境施設や多国間の通関システム・税制などのソフトインフラも含まれる。

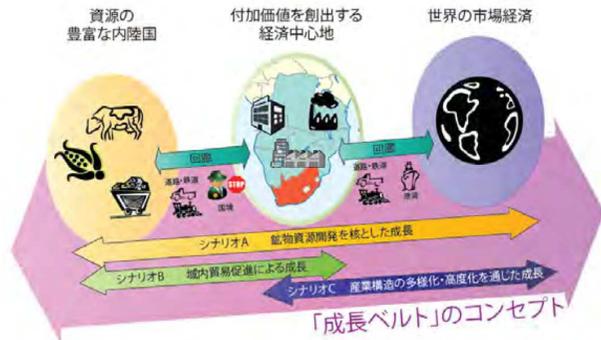


図3 【成長ベルト】のコンセプト

JICA「人びとに国境を開く道」

表9 ナカラ回廊及び南北回廊整備にかかる近年の主なJICA支援案件

対象回廊	分野・案件名
ナカラ回廊	ナカラ回廊経済開発戦略策定プロジェクト
	ナカラ回廊農業開発関連の技術支援 (ナカラ回廊農業開発マスタープラン策定支援プロジェクト、ナカラ回廊農業開発研究能力向上プロジェクト、ナカラ回廊農業開発におけるコミュニティレベル開発モデル策定プロジェクト)
	ナカラ港改善のための技術支援等 (ナカラ港開発事業準備調査、ナカラ港緊急改修計画準備調査、ナカラ港運営改善プロジェクト等)
	ナカラ回廊道路・橋梁整備支援 (複数の道路区間及び橋梁整備のためのF/S、詳細設計及び資金協力) その他の関連支援 (尿素肥料工場整備事業準備調査、ニアッサ州持続的的地方給水・衛生改善プロジェクト等)
南北回廊	カズングラ橋建設事業
	チルンドOSBP整備支援 (法制度整備支援、研修等)
	産業開発支援 (ザンビア投資促進プロジェクト、ザンビア産業戦略策定支援、ルサカ南部複合的経済特区(MFEZ)マスタープラン調査、ザンビア電力開発マスタープラン調査等)

JICA(2015年3月)「南部アフリカ地域経済回廊インフラ開発支援に係る情報収集・確認調査ファイナルレポート」¹⁴

速報 > 国際 > 記事

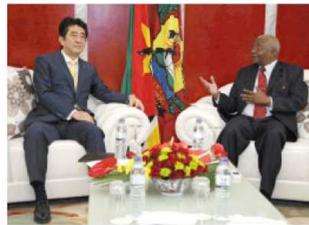
首相、ODA700億円表明 日モザンビーク首脳会談

2014/1/12 21:45

保存 印刷 リプリント 共有

【マプト(モザンビーク)＝川手伊織】中東・アフリカ歴訪中の安倍晋三首相は12日午前(日本時間同日夜)、モザンビークでゲブザ大統領と会談し、資源の採掘や加工で人材育成を重視した支援策を打ち出した。その後の講演では日本企業の投資は現地の雇用を生み出すことを強調。自国の労働者を送り込む中国との違いを鮮明にしてアフリカ支援で先行する中国をけん制する。

日本の首相のモザンビーク訪問は初めて。会談で首相は資源開発を支援する構想「日モザンビーク天然ガス・石炭発展イニシアチブ」を提唱した。豊富な資源を持つ同国で、鉱山開発、資源の精錬加工、環境問題への対応など資源に絡む人材を今後5年で300人以上育てる目標だ。石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)や国際協力機構(JICA)、千代田化工建設、秋田大学が専門家の派遣や日本での研修受け入れで協力する。



モザンビークのゲブザ大統領と会談する安倍首相(12日、マプト)＝共同

日本経済新聞 2014年1月12日

対モザンビーク共和国 国別援助方針

2013年3月

1. 援助の意義

モザンビークは、インド洋に面した2,500キロの長大な海岸線を有し、ジンバブエ、マラウイ、ザンビアといった内陸国のゲートウェイとして地理的要衝を占める。内戦後の1992年和平協定締結以降は、安定した政情の下、国家再建・経済社会開発を着実に進展させている。経済成長率は、近年は年間約7%前後を記録している。同国は、石炭、ガス等を始めとする鉱物・エネルギー資源が豊富であり、豊富な水資源を利用した水力発電にも恵まれているほか、農業開発の余地も大きく、経済成長の潜在性は高い。我が国は、モザンビークと国際場裏において緊密な協力関係を築いており、また、最近、日本企業による資源関連ビジネスも活発化し、農業開発における日本企業の関心も非常に高いなど、経済面を中心に二国間関係の更なる発展の余地が大きい。

我が国がモザンビークに対してODAを通じた支援を行うことは、同国が抱える様々な課題の解決を促し、その安定と発展は内陸国の成長にもつながるほか、日・モザンビーク関係全般の強化を通じて近年活発化している資源関連ビジネスや潜在力の高い農業分野等における日本企業の投資環境の整備・改善にもつながることから、意義が大きい。

3. 重点分野（中目標）

(1) 回廊開発を含む地域経済活性化

モザンビークではとりわけ地方部の開発の遅れが顕著であり、地域経済の活性化に取り組む必要性が高い。地域開発において、同国がザンビア、マラウイなどの内陸国にとっての外港を有しているという地理的特性を活かし、港湾から内陸国へと続くインフラ整備といった回廊開発を進めることが最も効果的であり、我が国としてこれを積極的に支援する。とりわけナカラ港から伸びるナカラ回廊は、モザンビークの有する豊富な鉱物・エネルギー資源の輸送路として、また、農業開発の潜在性が高い地域として重要である。ナカラ回廊開発の推進のため、回廊と周辺地域を結ぶ道路・橋梁改修やナカラ港の整備・電力等のインフラ整備を支援するとともに、日本・ブラジル・モザンビーク三角協力による「熱帯サバナ農業開発プログラム (ProSAVANA-JBM)¹⁾」により、農業開発支援に積極的に取り組み、包括的な回廊開発支援を行う。また、

4. 留意事項

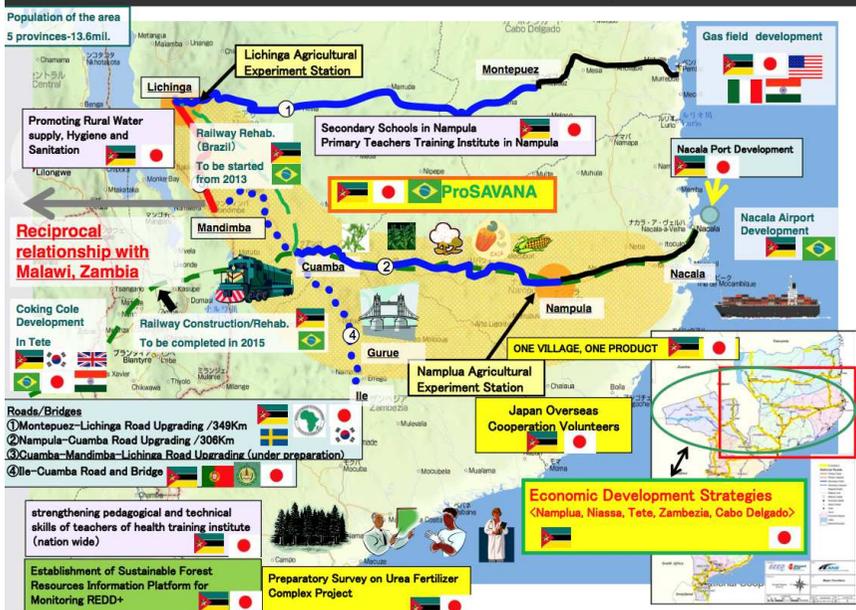
(1) モザンビークは豊富な鉱物・エネルギー資源及び高い農業開発の潜在性を有することから、今後、民間企業による資源関連ビジネスや農業投資はますます活性化すると見られる。同国への支援に際しても、日本企業との連携の機会を探索するため、様々な官民連携の手法を活用した支援を行う。

外務省ホームページ(国別援助計画2013年3月)

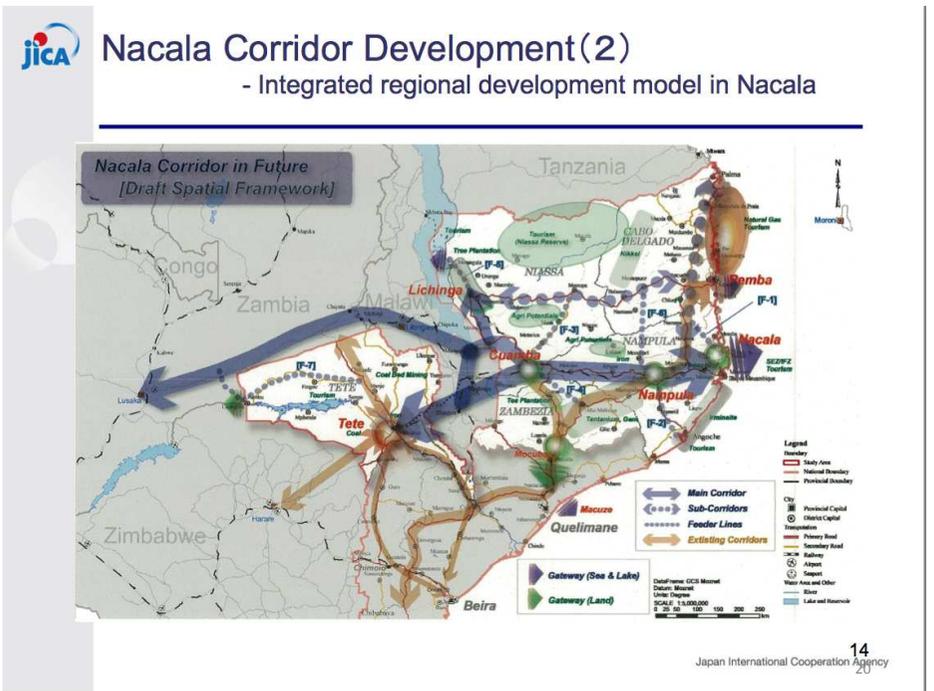
モザンビーク国別援助計画(2015年4月外務省)
「回廊開発を含む地域経済活性化」

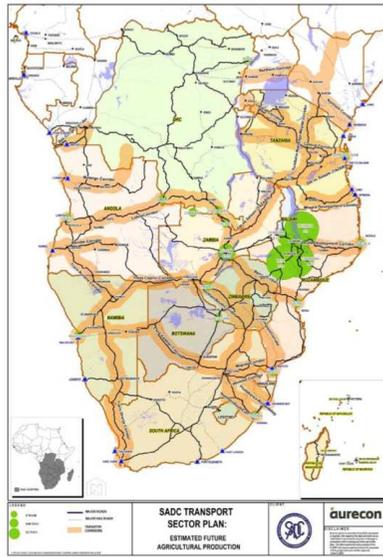
協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間					支援額 (億円)
				2014 年度 度	2015 年度 度	2016 年度 度	2017 年度 度	2018 年度 度	
開発目標1-1 (小目標) 回廊開発支援	ナカラ回廊開発・整備プログラム	ナカラ回廊及び周辺地域における道路・橋梁の整備、改修などの社会基盤整備を行い、回廊周辺地域の農業開発支援、及び教育・保健等包括的(インクルーシブ)な支援を行う。							59.78
		ナンブラクアンバ(国道)道路改修計画	有償						67.73
		マンディンバ(リンガ)道路改修計画	有償						38.05
		イレクアン(国道)道路改修計画	無償						32.82
		モンテプエス・リンガ(国道)道路改修計画	有償						
		カーボデルガド州橋梁建設計画準備調査	協賛						
		ナカラ回廊道路網改善事業準備調査	協賛						
		ナカラ回廊農業開発研究能力向上プロジェクト	技プロ						6.00
		ナカラ回廊農業開発マスタープラン策定支援	開発計画						4.80
		ナカラ回廊農業開発におけるコミュニティレベル開発モデル策定プロジェクト	技プロ						12.00
		ナカラ港運営改善プロジェクト	技プロ						3.01
		ナカラ港緊急改修計画	無償						32.00
		ナカラ港開発計画(Ⅰ)	有償						78.90
		ナカラ港開発計画(Ⅱ)	有償						292.35
ナカラ回廊交通インフラ整備計画	協賛								
ナカラ回廊送電網強化事業準備調査	協賛								
北東回廊開発計画策定支援	個別専門家								
ナンブラ州中学校改修計画	無償						10.63		
ナンブラ州モナゴ初等教員養成学校建設計画	無償						10.24		
ナカラ医療従事者養成学校建設計画準備調査	協賛								
ニアッサ州緑地地方給水・衛生改善プロジェクト	技プロ						7.61		
医薬品工場整備事業準備調査 (PPFインフラFS)	協賛								
ナカラ回廊経済開発戦略策定計画	開発計画						1.3		
								12.46	

Development Initiatives and Activities in Nacala Development Corridor



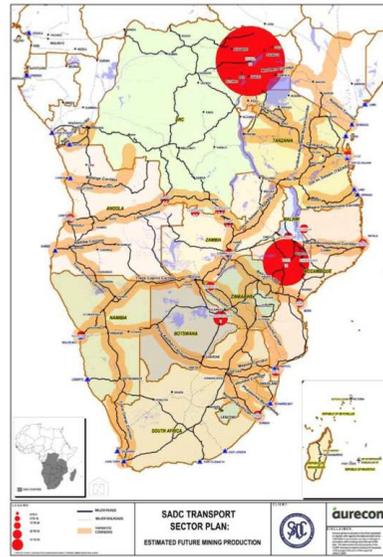
JICA(2013年6月) TICAD Vサイドイベント「アフリカの成長に向けた回廊開発の取り組み」





注：緑丸は潜在的生産量の推計値（トンヘクタール）の大きさを示す。
出典：SADC 広域インフラ開発計画（SADC, 2012）

図 21 農業生産ポテンシャル



注：赤丸は潜在的生産量の推計値（トンヘクタール）の大きさを示す。
出典：SADC 広域インフラ開発計画（SADC, 2012）

図 22 鉱業生産ポテンシャル⁶

南部アフリカ地域経済回廊インフラ開発支援に係る情報収集・確認調査

21

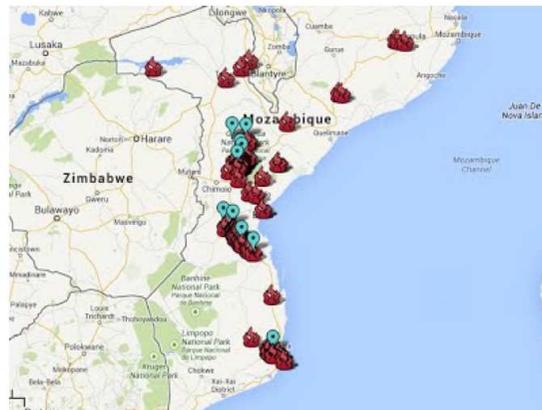


出典：同上

図 3.1.8 アフリカにおける農業生産を目的とした土地投資の投資元国とターゲット地域 2006～09年

JICA2010「南部アフリカ成長ベルト」²²

今、モザンビーク・ナカラ回廊沿いで何が起きているのか？



Map from @Verdade Newspaper
Fire indicates confrontation points

2013年から2015年 武力衝突地図

2014年10月選挙直前の「和平合意」 選挙結果

Party	1994	1999	2004	2009	2014
フレリモ	129	133	160	191	144
レナモ	112	117	90	51	89
第三政党	9	0	0	8	17

- 外務省：「民主的統治と不正がないからレナモがこれほど得票した」と主張するが...
- 不正がなければもっと票が伸びていた可能性が議論的となってきた。例)レナモとMDMの選挙管理委員会と憲法評議会への異議申し立て。
- 選挙結果を承認するかどうかの国際的な議論。
- レナモによる「(合同)管理政府」案→「自治州案」
↑
- そもそも、地域によって大きく異なる支持政党
- 地方分権が進まない理由＝大統領の州知事・郡長以下までの任命制度
- ←レナモ「自治州構想」：憲法学第一人者シスタック教授が「可能」と表明
- ←シスタック教授の暗殺(2015年3月)

2014年選挙: 大統領選挙

州	レナモ	MDM	野党合計	与党	
ニアサ	44.42	7	51.42	48.57	* 不正可能性あり
カーボデルガード	18.16	3.86		77.98	
ナンプーラ	49.84	5.86		44.3	
ザンベジア	52.75	8.21		39.04	
テテ	49.6	4.34		46.07	* 不正可能性あり
マニカ	48.44	3.72		47.84	
ソファラ	55.91	8.76		35.33	
イニャンバネ	18.66	5.07		76.27	
ガザ	3.17	3.03		93.81	
マプト州	17.61	8.76		73.63	
マプロ市	20.63	10.48		68.89	

以上、6州での「自治州構想」を提案

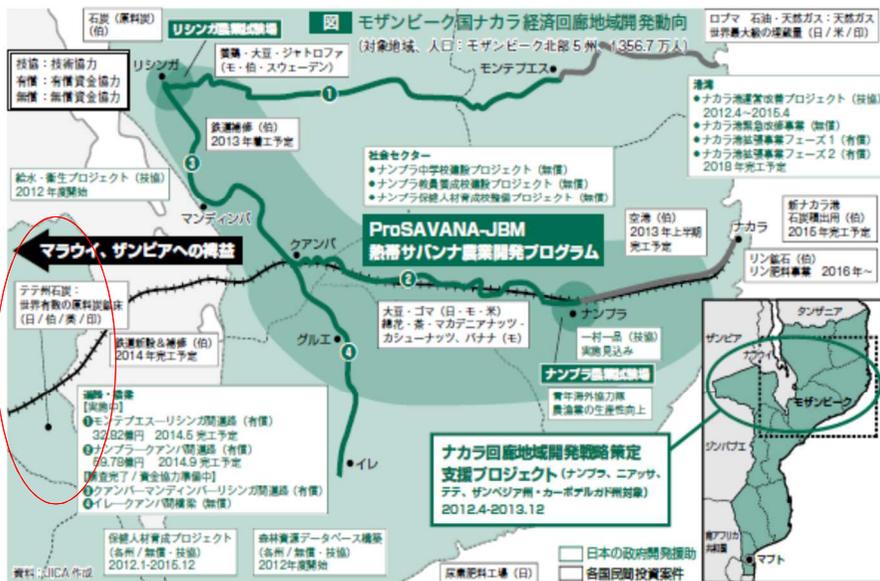
マラウイへの難民: 6,000人以上



UNHCR staff brief new arrivals from Mozambique on the registration process in Kapise village in Mwanza district.

出典: UHNCRサイト
* 到着したばかりの難民に説明を行っている様子

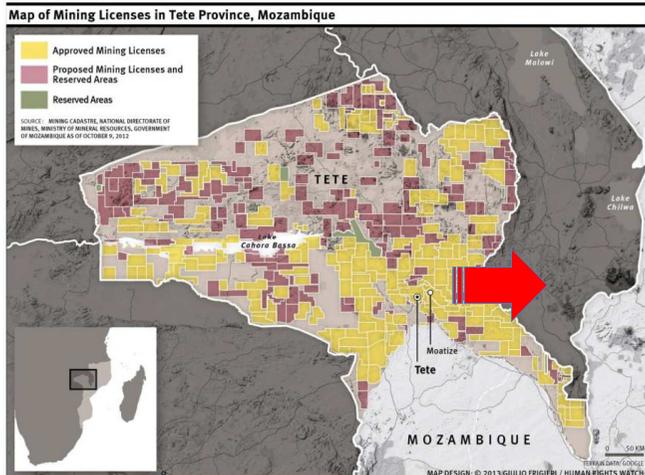
難民発生地と日本の関係: 官民による援助投資 ナカラ回廊地域経済開発



ナカラ経済回廊開発の基本構想 (簡略図)



難民の出身地：テテ州モアティゼ郡：炭鉱のため広大なるコンセッション



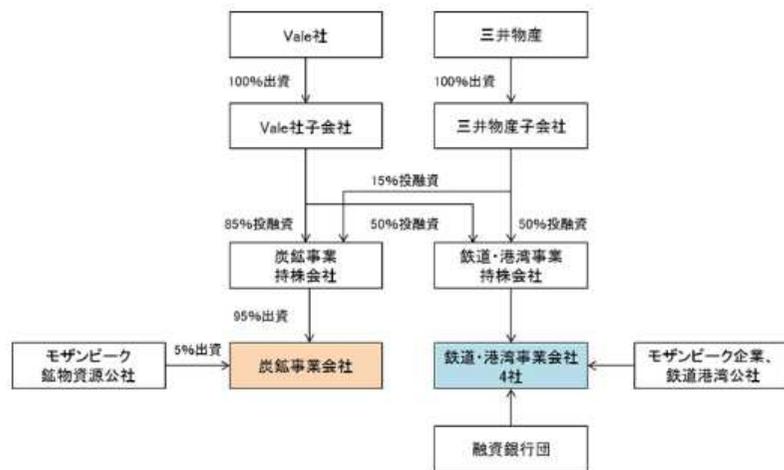
HRW, 2013 「鉱山開発に伴う立退き、食料と水が不足」
<https://www.hrw.org/ja/news/2013/05/23/251977>

日本官民あがって取組む「ナカラ回廊開発」



right © MITSUI & CO., LTD. All Rights Reserved.

投資ストラクチャー



三井物産 2014年12月9日プレスリリース
http://www.mitsui.com/jp/ja/release/2014/1205643_6497.html

ヴァレVale社+三井物産 まさにここ(Moatize郡Zobue地区)から 難民流出



【ナカラ回廊】

2015年6月～現在 政府軍・警察によるレナモ党首襲撃 &レナモ民兵・支援者の掃討作戦



難民の声

モアティゼ郡ゾブエ地区の2人の難民女性：
警察(特殊部隊)がやってきて、すべてを焼き払い始めた。その結果、私たちはすべてを失った。レナモじゃない。特殊部隊が火をつけた。目の前、5メートル前でやられたことだ。これは初めてのことでない。
(DW(ドイツ国際放送), 2015年7月25日)

Nkonedziから6月に逃げた難民：
レナモに協力したかどで警察部隊が住民の殺害、一般女性をレイプし、家々の焼き討ちを行っていることを次のように述べた。(中略)インタビューされた難民は、当面モザンビークには戻れないと考えている。
(DW、2016年1月29日)

UNHCRでも同様の趣旨の報道。
<http://www.unhcr.org/print/5698dbff6.html> (2016年2月4日)

34

モザンビーク政府の声

テテ州警察スポークスパーソン：
難民による非難を否定し、
「あの地区の警察は住民を守る為にいるのであって、それが文民の家々を焼き討ちするなどあり得ない。レナモの男達がそこにいたとしか思えない」と述べた。
(カッコは発表者加筆。DW(ドイツ国際放送), 2015年7月25日)

警察署長：
警察関係者が住民に危害を加えたことを否定し、
「彼らが警察から逃げているというのは事実ではない。彼らはレナモの野蛮さや彼らが行う誘拐から逃れているのだ」と主張した。
(DW、2016年1月29日)

35

UNHCRによる警告

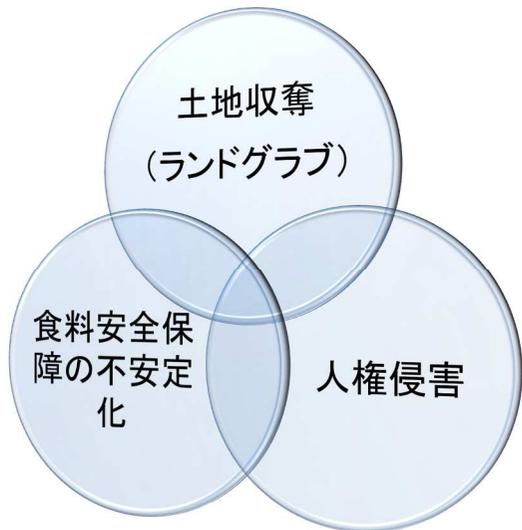
「UNHCRは、モザンビーク政府による難民への帰還圧力に対し警告」
Zitamar News 2016年2月19日
<http://zitamar.com/unhcr-warns-mozambique-over-pressure-on-refugees-to-return/>

(前略)UNHCRはモザンビーク政府が、難民に対して帰還するように圧力をかけていることを批判している。これらの難民は、マラウイにいる理由として、RENAMO支援を疑う政府系武装勢力による攻撃から逃れるためであり、モザンビークで難民らの安全を確保するというモザンビーク政府の約束を信用できないからだ、述べてきた。

外務大臣オルデミーロ・バロイ(Oldemiro Baló i)は、キャンプを訪れ、難民らに家に戻るようにつこく迫るとともに、UNHCRの現地代表者らが難民らに留まるように試みていると非難した。これを受けて、UNHCRは、2月18日の声明で、モザンビークとマラウイ政府は難民の亡命権を尊重すべきと発表した。

36

現在のナカラ回廊開発モデルによる影響



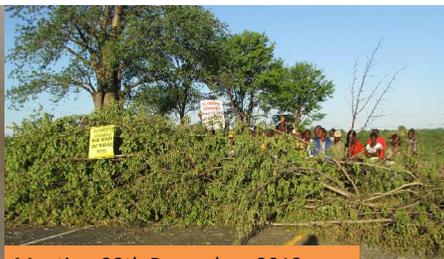
ナカラ回廊沿い地域での調査研究
現地農民を招聘した講演会



テテ州におけるヴァレの石炭開発による人権侵害の現状



Moatize, January 10th, 2012



Moatize, 23th December, 2013



モザンビーク政府のガバナンスの課題：人権侵害



【左】政府関係者にプロサバンナ事業に対する疑問を口にしたものは投獄すると脅されていることを語るザンベジア州の農民

【右】ナンプーラ州マレマ郡ムトゥアリでの公聴会。参加者の大半が事業に対する反対の声をあげたが、その後、小農組織リーダーらが、発言を撤回するよう地元政府関係者より圧力を受ける。

ODA政策協議会やプロサバンナ事業に関する意見交換会で繰り返し指摘し、対応をお願いしてきた。



難民の背景: 開発の犠牲になる人びと(ナンブーラ州マレマ郡)



海外アグリビジネス企業により収奪された土地に立つ住民。
現在企業により大豆が植えられている。

41

ナカラ回廊経済開発・プロサバナが
奨励した大豆生産急増＝土地収奪



42

ナカラ回廊での植林事業の進出によって放棄されたコミュニティの様子



43

ナカラ鉄道
貨物に奪われ生活の足を失う住民



44

小農から見た「経済回廊開発」

- 炭鉱開発、植林プランテーション、アグリビジネス投資による土地収奪
- 環境汚染(石炭、農薬の空中散布)
- 民衆抵抗への弾圧・人権侵害
- 民主主義の後退とガバナンス悪化
- 国家暴力と難民の大量発生
- 高騰する物価と貧富の格差の拡大



「誰のための開発なのか？」